

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

- ・請求の範囲 1-4、9-23、28-39 について

請求の範囲 1-4、9-23、28-39 に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献 1-11 により進歩性を有さない。

文献 2 には、蛾の細胞由来のミクロソーム画分を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 3-4 には、カイコ幼虫の後部絹糸腺由来の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されており、該抽出液を用いて、外来タンパク質の mRNA の翻訳及び翻訳後のグリコシレーションを行うことができると記載されている。

文献 5 には、カイコ幼虫の後部絹糸腺由来の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 6 には、カイコ幼虫の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 7 には、ドロソフィラ細胞由来の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されており、該抽出液を用いて、哺乳類由来のタンパク質を製造することができると記載されている。

文献 8 には、ドロソフィラ細胞由来の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 9 には、ウサギ網状赤血球由来の抽出物及び犬脾臓由来ミクロソーム膜を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 10 には、小麦由来の抽出物及び犬脾臓由来ミクロソーム膜を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

文献 11 には、ウサギ網状赤血球、大腸菌、酵母、または小麦由来の抽出物を含む、無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。

請求の範囲 1-4、9-23、28-39 について、文献 9-10 に記載されたように、ある種の生物由来の抽出液と、別の種の生物由来のミクロソーム膜を共に用いて、無細胞系タンパク質合成を行うことは、公知の技術であったから、文献 1、3-8 に記載された、カイコ幼虫等の節足動物由来の抽出物と、文献 1-2 に記載された、節足動物由来のミクロソーム膜を共に用いて、無細胞系タンパク質合成を行うことは、当業者が容易になし得ることである。また、抽出物として、文献 11 に記載された、ウサギ網状赤血球、大腸菌、酵母、または小麦由来の抽出物を用いることは、当業者が容易になし得ることである。

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人 岡田 正広 あて名 〒 540-0010 大阪府大阪市中央区材木町1番6号 第12新興ビル10階 岡田正広特許事務所	様
--	---

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

25. 1. 2005

出願人又は代理人
の書類記号 G104090WO

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
PCT/J P 2004 / 017219

国際出願日
(日.月.年) 12. 11. 2004

優先日
(日.月.年) 13. 11. 2003

国際特許分類 (IPC) Int. Cl. C12P21/02, C07K14/00, C12N15/09

出願人 (氏名又は名称)

株式会社 島津製作所

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☒ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

07. 01. 2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
鈴木 恵理子

4 N 3 1 2 6

電話番号 03-3581-1101 内線 3448

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)



第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☒ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☒ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☒ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☒ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 4 1

理由:

☐ この国際出願又は請求の範囲は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☒ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 4 1 の記載が不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

（補充欄参照）

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☒ 請求の範囲 4 1 について、国際調査報告が作成されていない。

☐ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が、実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を、次の点で満たしていない。

書面による配列表が
コンピュータ読み取り可能な形式による配列表が

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。
- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の基準を満たしていない。

☐ コンピュータ読み取り可能な形式によるヌクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を、次の点で満たしていない。

- ☐ 提出されていない。
- ☐ 所定の技術的な要件を満たしていない。

☐ 詳細については補充欄を参照すること。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	5-8, 11-19, 24-27, 30-38	有 無
	請求の範囲	1-4, 9-10, 20-23, 28-29, 39-40	
進歩性 (I S)	請求の範囲	5-8, 24-27	有 無
	請求の範囲	1-4, 9-23, 28-40	
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-40	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

文献1 : J. Biol. Chem., 1981, Vol.256, No.24, pages 13188-92
 文献2 : Insect Biochem., 1977, Vol.7, pages 77-83
 文献3 : JP 2003-235598 A (レンゴー株式会社) 2003.08.26
 文献4 : JP 2003-245094 A (レンゴー株式会社) 2003.09.02
 文献5 : Comp. Biochem. Physiol. B., 1988, Vol.91, No.2, pages 383-8
 文献6 : Biochim. Biophys. Acta., 1990, Vol.1087, No.1, pages 18-24
 文献7 : Biochemistry, 1979, Vol.18, No.8, pages 1588-94
 文献8 : WO 00/50586 A2 (European Molecular Biology Laboratory) 2000.08.31
 文献9 : J. Biol. Chem., 1978, Vol.253, No.11, pages 3753-6
 文献10 : J. Cell. Biol., 1981, Vol.91(2 Pt 1) pages 545-50
 文献11 : JP 2000-175695 A (理化学研究所) 2000.06.27
 文献12 : JP 62-500631 A (シタス コーポレイション) 1987.03.19

・請求の範囲1-4、9-10、20-23、28-29、39-40について

請求の範囲1-4、9-10、20-23、28-29、39に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1により新規性を有さない。

文献1には、蚊の細胞由来の抽出物を用いた無細胞系タンパク質合成用抽出液が記載されている。そして、該抽出物が細胞内膜画分を含んでいる場合、生成したタンパク質はグリコシレーションを受け、ミクロソーム粒子内に取りこまれたと記載されているから、該抽出物は、蚊由来のミクロソーム膜を含有していると認められる。

請求の範囲40に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献12により新規性を有さない。

文献12には、ヒト由来のTNFが記載されている。

(補充欄に続く)

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲40に記載の物質は、「請求の範囲第1項に記載のタンパク質合成方法によって得られた、N-グリコシル化されたタンパク質」と特定されており、当該合成方法で得られる、N-グリコシル化されたあらゆるタンパク質を包含するものである。

しかしながら、当該合成方法で得られる、N-グリコシル化されたタンパク質として、明細書に具体的に開示されているものは、配列番号2に示されたDNA配列がコードするTNFタンパク質のみである。また、出願時の技術常識を勘案しても、当該合成方法で得られる物質の範囲を特定できないから、請求の範囲40の記載は不明確である。

したがって調査は、明細書に具体的に記載されている、配列番号2に示されたDNA配列がコードするTNFタンパク質について行った。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第Ⅲ 欄の続き

請求の範囲41に記載の物質は、「請求の範囲第1項に記載のタンパク質合成方法によって得られた、シグナル配列が切除されたタンパク質」と特定されており、当該合成方法で得られる、シグナル配列が切除されたあらゆるタンパク質を包含するものである。

しかしながら、明細書には、当該合成方法で得られる、シグナル配列が切除されたタンパク質として具体的なものが一切記載されていないから、請求の範囲41は、明細書による裏付けを欠き、開示も欠いている。また、出願時の技術常識を勘案しても、具体的にどのような物質が包含され、どのような物質が包含されないのかが全く不明であって、請求の範囲41の記載は著しく不明確である。

したがって、請求の範囲41に記載された発明について有意義な調査をすることができない。